

～北海道の山をいつまでも楽しむために～

2025年（令和7年）

北海道の山のトイレ 活動報告集



【活動報告会】

札幌エルプラザ2階「環境研修室1・2」

2026年3月15日（日）15:00～16:20

山のトイレを考える会

<http://www.yamatoilet.jp>

目 次

・巻頭言にかえて	1
小枝 正人（山のトイレを考える会 代表）	
・2025年度美瑛富士・携帯トイレへの取り組み11年目の活報告	2
磯部 吉克（美瑛富士トイレ管理連絡会事務局 山のトイレを考える会）	
・第26回山のトイレフォーラムの報告	11
山のトイレを考える会	
・日高山脈・カムイエクウチカウシ山のテント場トイレ調査	16
幸村 和実・城石 謹爾（山のトイレを考える会）	
・日本自然保護大賞・選考委員特別賞を受賞	20
山のトイレを考える会	
・R7黒岳トイレの利用・管理実績と今後の改善に向けて	22
中島 浩之（上川総合振興局保険環境部環境生活課主査（山岳環境））	
・黒岳トイレ年度別実績データ・設備情報	28
山のトイレを考える会	
・トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和7年度の取組みについて	29
滝下 麻耶（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）	
永田 拳吾（環境省大雪山国立公園管理事務所上士幌管理官事務所）	
・トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトの活動実績データ記録	33
山のトイレを考える会	
・北海道・山のトイレマップの配布と今後について	34
山のトイレを考える会	
・日高山脈トイレマップの作成配布について	35
山のトイレを考える会	
・「さっぽろスカイレイクトレイル」リーフレットの制作について	36
仲俣 善雄（山のトイレを考える会 事務局長）	
・大雪山トイレ関連・年度推移記録データ	37
山のトイレを考える会	
・R7年度 大雪山国立公園・登山口別携帯トイレ持参率	38
上川中部森林管理署・上川南部森林管理署・十勝西部森林管理署東大雪支署 上川総合振興局南部森林室	
・令和7年度大雪山国立公園入山者数調査（登山者カウンター等による推計結果）	39
環境省大雪山国立公園管理事務所	

巻頭言 にかえて

山のトイレを考える会 代表 小枝正人

北海道の山を愛する山のトイレを考える会員の皆さま、この1年いかがお過ごしでしたか。令和7年度（2025年度）の「山のトイレを考える会」は、皆さまのご支援に支えられて、この1年も元気に活動をやり遂げることが出来ました。本当にありがとうございました。

例年、新しい年の3月に会員の皆さまや会員外の多くの方々も共に集まり、「山のトイレを考えるフォーラム」の開催を26回に亘り続けてきましたが、今年は諸般の事情によりフォーラムの開催は中止し、活動報告会を会員の皆さま限りで、こぢんまりと開催することになりました。フォーラム開催が無いのは少し淋しい気分ですね。

2000年6月に当会が発足して以来25年余りの来し方を振り返りますと、大雪山国立公園では、当時、3つの場所の山岳環境問題が大きな課題として懸念されていました。トムラウシ山南沼野営指定地、美瑛富士避難小屋野営指定地および旭岳・裏旭野営指定地のトイレ問題でした。それらは、改善されたでしょうか。改善に向かっている場所と、残念ながら変わらぬ問題を抱えている場所とに分かれたままです。私達の長年の活動も力不足を実感します。

トムラウシ山南沼野営指定地は、携帯トイレブースも増設され、多くの関係者の継続した活動の結果、トイレ紙・汚物は消え野営指定地周辺に出来ていたトイレ道の植生が回復してきました。美瑛富士は、美瑛町・環境省・登山者団体による官民協働活動による美瑛富士避難小屋携帯トイレブースの設置・維持・点検パトロール活動の継続で、ここもトイレ道の植生が回復する効果が上がって来ています。しかし旭岳・裏旭野営指定地は、まだ何も変わっていないのです。

直近の情報をお知らせします。2026年1月8日に旭岳・裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置の件を議論してきた大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会は、当日の第8回目をもって検討作業部会そのものの開催を終了としました。旭岳・裏旭野営指定地の携帯トイレブースは環境省の調査報告書で設置の必要性は確認されましたが、維持管理体制の検討を(上位部会の登山道維持管理部会にて)継続して議論することになりました。真意が判りますでしょうか。

私達は、そのままに寝ているヒマは無いのでしょうか。これからの1年も目を開けて、これからも山を守る～山岳環境の改善を目指して活動していきます。皆さまからのご鞭撻を待ちます。

結びはいつもの次の言葉です。

～山岳環境問題改善の活動は官民協働の仕組み構築こそが未来への道である～

2025年 美瑛富士・携帯トイレへの取り組み11年目の活動報告 ～携帯トイレ環境で「選ばれる山に!」～

山のトイレを
考える会HP



美瑛富士トイレ管理連絡会事務局

山のトイレを考える会 磯部吉克@山歩人



1. はじめに…携帯トイレブース設置から12年目へ（固定式8年目）

美瑛富士避難小屋にはトイレが設置されていないため、かつては周辺にティッシュや排泄物💩が散乱し、放射状にいわゆる「トイレ道」が形成され、裸地化が進行していた。こうした状況を改善するため、2015年より携帯トイレの利用促進策として、🏕️テント式の携帯トイレブースを設置してきた。しかし登山者からは、より安定した“固定式携帯トイレブース”を望む声が多かった。



トイレ道だった場所に高山植物が咲くまでになった…

その要望を受け、2019年8月27日、環境省により“固定式携帯トイレブース”が設置され、供用が開始された。また、固定ブースの設置に先立ち、同年4月25日には北海道地方環境事務所・美瑛町・美瑛富士トイレ管理連絡会の三者により、「美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書」が📄締結された。協定では、環境省が固定ブースの改築・改修等の大規模修繕、美瑛町が軽微な修繕・冬囲い・回収ボックスの管理、そして美瑛富士トイレ管理連絡会がブースの点検・清掃および周辺清掃を担うことが定められている。



そして11年目となる2025年も、「清潔なブース」「汚物のない野営指定地」「きれいな避難小屋」を目標に点検パトロールを実施した。毎年訪れる中で、かつて「トイレ道」だった場所の植生が少しずつ回復していることを確認でき、大きな喜びとなっている。

なお、今年のカレンダーは☔️悪天候続きであったが、そのような条件下でも作業にあたってくださった関係団体の皆様に深く感謝申し上げます🙏。



テント式携帯トイレブース
(2015年～2019年)



固定式携帯トイレブース
(2019年9月～)

2. 携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

今シーズンも美瑛富士トイレ管理連絡会により、2025年6月27日～10月5日までの約4か月の間に、固定ブースの冬囲い外しと冬囲いを兼ねた2回を含め、計9回の点検パトロール・維持管理活動を計画した。荒天のため1回は中止となったものの、計8回の活動を実施することができ、延べ70名が参加した😊。

冬囲い外しについては、当初より早期の実施を目指していたが、🌧️☁️⚡️悪天候により2度の延期を余儀なくされた😞。

■ 2025年 携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

- ① 6月27日(金) … 携帯トイレブースの冬囲い外し(供用開始)：7名
(美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会)
- ② 7月6日(日) … 大雪山国立公園パークボランティア連絡会：7名
- ③ 7月20日(日) … 札幌山岳連盟・札幌山岳倶楽部：9名 ※🌧️悪天候ため中止
- ④ 7月27日(日)～28日(月) … 日本山岳会北海道支部：5名
- ⑤ 8月10日(日) … 北海道山岳・スポーツクライミング連盟・自然保護委員会：8名
- ⑥ 8月30日(土)～31日(日) … 道央地区勤労者山岳連盟：16名
- ⑦ 9月7日(日) … 道北地区勤労者山岳連盟：4名
- ⑧ 9月22日(月) … 北海道山岳ガイド協会：2名
- ⑨ 10月5日(日) … 携帯トイレブースの冬囲い(供用終了)：12名
(美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会)

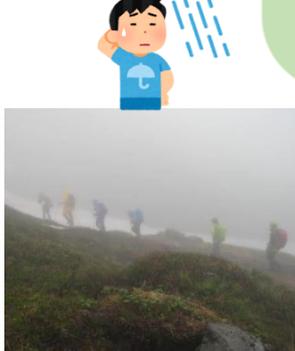
延べ9回実施／70名参加

■ 2025年 点検パトロール等実施報告(主な概要) ※詳細は山のトイレを考える会のHP参照



📅 6月27日

🌧️ 今年も トイレブースは破損もなく、塗装状態も良好で、完璧な状態で残っていた。悪天候かつ平日であったものの集まれるメンバーのみで何とか冬囲い外しを実施した。一方で、「避難小屋の小窓が破損」「茂みの中にティッシュやゴミが散乱」「避難小屋内に、ピーボトルに入れられた尿やテント用ポールが放置」されていた。🌧️❄️寒かったが、登山道沿いの🌸花々が美しい…



📅 7月6日

🌿 テント場付近は 🗑️ 汚物に石がかぶせられ目立たなくされている箇所があったが、ティッシュ類の放置は見られなかった。ブースがあるにもかかわらず使用されない背景には「持参していない!」「我慢できない!」「使用が面倒!」「自然分解されると誤解している!」などの理由が考えられる。引き続き具体的な対策を検討していきたい。



📅 7月20日

🌿 生憎の空模様、天然庭園で登頂を断念し、活動は中止。ただし、白金温泉公衆トイレに設置している携帯トイレ回収ボックスの点検は実施👁️。点検の結果、残念ながら 🗑️ 空き缶が捨てられていた(4缶) 🚫… 🔒 施錠はされていた。



📅 7月27～28日

🌿 両日とも生憎の空模様。ブースは本体・内部ともに破損や汚れは確認されなかった。小屋周辺では使用済みティッシュを回収。避難小屋は内部天井の合板が一部剥がれて 🌧️ 雨漏りの影響が懸念される。登山道は泥濘がひどく 🌿 笹やハイマツが被さって歩きづらい状況だった。早急な登山道整備 ✂️の必要性が強く感じられた。



📅 8月10日

☔️ 生憎の空模様。ブース内のメッシュ床下にはティッシュや凝固剤袋の欠片があったが、周辺はきれいに使用されていた。利用者への聞き取りでは、多くの登山者が携帯トイレを持参しブースを利用している一方、「不携帯で穴を掘って用を足している」との声も…その場で携帯トイレの携行や利用をお願いするとともに、活動内容も説明。避難小屋内に残されていたガス缶や下着、片方のグローブを回収。白金温泉公衆トイレの回収ボックスにはゴミはなかったが、張り紙の薄れと汚れが目立っていた。



📅 8月30～31日

☔️ またしても両日とも生憎の空模様(低温注意報)。ブースや小屋周辺はきれいだった。ブース外に携帯トイレのプラ袋が捨ててあった。ブース内に落ちていたティッシュ回収。白金温泉公衆トイレの回収ボックスに  空き缶が捨てられていた (4缶) …  施錠はされていた。



📅 9月7日

🌧️ 生憎の空模様（雨と強風）。小屋・トイレブース周辺は殆どゴミや汚れが見られなかった。避難小屋の天井コンパネが一部剥離していた。小屋内の掃き掃除を実施。白金観光センター回収ボックス内に📺 空き缶6個あり回収済み。たびたび空き缶が投棄されている状況である。



📅 9月22日

🌧️ 生憎の空模様…ブース本体に破損や汚損はなかったが、緩んでいた固定ロープを締め直した。また、ブース内に置かれていた手ぬぐいを回収し、石で隠されていた💩汚物やティッシュも回収した。



📅 10月5日

☀️今年も多くの協力者により手際よくブースの冬囲いを終えることができた。登山道は整備されていてとても歩きやすくなっていた(感謝)。当日は久々に天候に恵まれ作業が捗った。🏕️テント場で、ティッシュやゴミを回収。ブース内はきれいな状態であった。今年も多くの方にキレイにご利用いただきました😊…ありがとうございます!



新天板の運搬



ゴミ回収



通気口防ぐ作業



保護天板取付作業



雨漏り防止と
ブルーシート被せ作業



ブースの防水性・耐久性の
向上と保護強化



ベルトやPPバンド固定



小屋前の解散式…お疲れ様!



便座もお疲れ様!



3. 携帯トイレブースの利用数は過去最高の480回

携帯トイレブースの利用実態については、2022年から利用数(カウンター値)の記録を続けており、2025年もほぼ正確な値(利用数480回^{※1})を得ることができた。前年の推計値と比較すると微増傾向^{※2}ではあるものの、利用者数は毎年確実に伸びていることが確認できる。

携帯トイレの利用は、登山者一人ひとりが高山環境を守るためにできる最も効果的なアクションのひとつである。利用者が着実に増加していることは、携帯トイレの必要性が理解され、山を守ろうとする意識



携帯トイレブース内のカウンター

が広がっている証でもあり、大変心強く感じている。今後も、引き続き普及啓発や環境保全活動に力を入れていきたい。

■ 2025年の携帯トイレブースカウンター値※1

月/日	6/27	7/6	7/20	7/28	8/10	8/30	9/7	9/22	10/5
数 値	4	61	中止	280	329	395	412	438	480

■ 2016年～2025年(10年間)の年度別携帯トイレブースの利用数※2

年	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
利用数	179	180	196	218	203	201	*142 以上	*277 以上	365	480

*2022年、2023年は誤作動等による推定数値

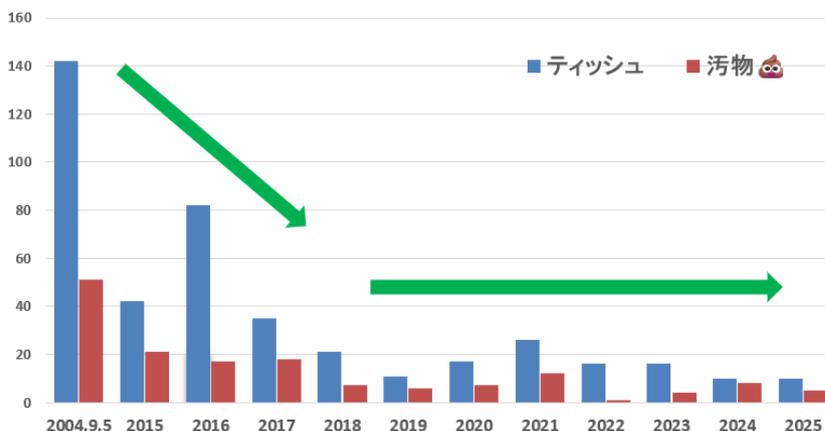
4. ティッシュ、汚物等の回収状況

2015年から継続してきた避難小屋周辺の点検パトロールは、2025年で11年目を迎えた。今シーズンにおける小屋周辺での回収状況は、 ティッシュ類 10個、 汚物類 5個、 ゴミ類 20個であった。記録の残る2004年頃と比較すると大幅に減少しているものの、統計には反映されていないゴミの回収量は依然として増加傾向にある（下記図参照：年度別推移）。

マナーを守れない登山者が一定割合存在することも事実である。しかし、その割合を減らし、可能な限りゼロに近づけること、そして携帯トイレの認識率・所持率を100%に近づけることが、私たちの目標である。今後も引き続き、点検パトロールの継続と各種啓発活動を地道に進めていきたい。

また、登山者が安心して携帯トイレを使用できる環境の整備や、美瑛富士避難小屋を利用する際には「携帯トイレを必ず所持する！」ことを広く周知する必要がある。特に SNS  を活用した発信は今後さらに重要性が増すと考えており、継続的かつ効果的な広報に努めていきたい。

美瑛富士ティッシュ・汚物回収数年度推移



5. おわりに…次年度の課題解決等に向けて

(1) 冬囲い方法と冬囲い外しの時期について

美瑛富士避難小屋の固定式携帯トイレブース設置から8年が経過した。ブースは約7か月間❄️雪に埋もれ、冬の強風にもさらされるため、毎年10月上旬に冬囲いを施しているが、過去には強風で冬囲いが飛ばされ、翌春に無残な姿で見つかったこともあった。長期的に快適に利用するためには、厳しい気象条件に耐える保護体制が欠かせない。これまでの試行錯誤を踏まえ、環境省が2022年からマニュアルを整備し、現在はベテラン会員や地元役場や地元山岳会の協力で安定した作業が行われている。今後も確実な保護が必要である。上からすっぽり被せるタイプのカバー(テント)の導入を含め、どのような方法が適切か、予算面も踏まえて環境省と検討していきたい。近年は降雪量の減少や雪融けの早期化により、冬囲い外しを早めて供用開始を前倒しすべきとの意見もあるが、地元の行事や関係者の業務調整もあり、必ずしも簡単ではない。今後は関係機関と協議しながら、実施時期について慎重に検討していきたい。



なお、ブース閉鎖期間中も、登山者には携帯トイレの使用とゴミの持ち帰りに引き続き協力をお願いしたい。

(2) 携帯トイレ回収ボックスは、ゴミ箱ではありません！



空き缶など不適切な投棄

白金温泉公衆トイレに設置されている回収ボックスは「ゴミ箱ではない!」。観光客による不法投棄を防ぐため、ダイヤルキーで施錠されており、鍵番号は、**530(ゴミゼロ)**としている。番号は、トイレマップや登山口ゲート、入林届箱、避難小屋内、携帯トイレブー

ス内などで周知し、外国語表記にも対応している。それでも空き缶など不適切な投棄は依然として発生している。また、今年は🌀暴風で白銀温泉や十勝岳温泉の回収ボックスが飛ばされ、地元自治体等が固定措置を行った。回収ボックスの利用は登山者の間で徐々に定着しつつあるが、あくまで「携帯トイレ専用」であり、🗑️ゴミ箱ではないことを改めて徹底していく必要がある。



固定された回収ボックス

今後も、下山後は必ず携帯トイレを専用の回収ボックスへ入れて、ゴミを捨てないよう、ご協力をお願いしたい！

(3) 携帯トイレ環境で「選ばれる山に！」

最近では加齢や通い慣れたこともあり、遠方からの作業参加に限界を感じるようになってきた。北海道でも本州同様、トイレ環境やテント場、登山道が整わない山は「選ばれない山」になりつつあり、携帯トイレの整備は「選ばれる山」への重要な取り組みと考えている。余力がある限り、ブースの維持管理や全道での携帯トイレ普及に関わっていききたい😊。



新しい天板を運ぶ環境省職員

近年の物価高騰などもあり、遠方からの継続的な支援が難しくなると考えている。最終的には地域での引き継ぎが望ましいが容易ではない。安定した維持管理には地域主体の恒常的な体制も不可欠である。具体的には、地元自治体からの依頼や登山道整備のようなボランティアを募る形が必要である。

私自身、会に入る前は👁️を沢に流してしまうなど恥ずかしい行為もあったが、運営委員として活動する中で携帯トイレやバイオトイレについて学んできた。今では🏕️テント内や人のいない山頂🏔️で積極的に携帯トイレを使用しており、その快適さ！防臭力！使いやすさ！に驚いている。使用後は回収ボックスへ！満杯になっていると嬉しくなるほどだ😄。



望岳台の回収ボックス

大雪山では官民一体となり、環境保全のため携帯トイレの携行・利用を呼びかけている。当会のHPには回収ボックスの設置場所や取扱店の情報も掲載しているので、関心のある方はご覧ください！

携帯トイレブースの設置（テント式・固定式）から11年目を迎えた。これまで支えていただいた関係機関の皆様にも深く感謝するとともに、今後も変わらぬご協力をお願いしたい。また、こうした取り組みが、各団体が当番制で山を守り続ける一つのモデルとして広がっていくことを心から願っている。

(以上)



大雪山国立公園連絡協議会の携帯トイレの使い方動画



WC 美瑛富士トイレ管理連絡会の構成団体

北海道山岳・スポーツクライミング連盟、札幌山岳連盟
北海道勤労者山岳連盟、北海道道央地区勤労者山岳連盟
北海道道北地区勤労者山岳連盟、日本山岳会北海道支部
北海道山岳ガイド協会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会
山のトイレを考える会

❀「携帯トイレを使おう！」北海道の美しい自然をいつまでも！❀

第26回山のトイレを考えるフォーラムの報告
誕生！「日高山脈襟裳十勝国立公園」
～日高の山を愛し、地域で活動している仲間から学ぶ～

山のトイレを考える会

〔日 時〕 2025年（令和7年）3月15日（土） 14時30分～17時

〔会 場〕 札幌エルプラザ4階「大研修室A・B」

〔参加者〕 66名



1. 開催目的



立ち見席ができるほどの参加者

- (1) 日高山脈襟裳十勝国立公園は2024年（令和6年）6月25日に誕生した。今回のフォーラムの目的は、地元の山を愛し登山道、避難小屋そしてトイレなどの維持管理に熱心に取り組んでいる山岳団体の活動を知り、現場の実情と課題をみんなで共有することとした。
- (2) 一方環境省や自治体等は日高山脈襟裳十勝国立公園協議会を設立、今後「国立公園ビジョン」「地域ルール」「マナー」「行動計画」等が協議・策定される。現場の声が行政に届くよう、官民が一体となって保護と適切な利用を推進するため、どのようにコミュニケーションを図り、取り組みを進めていくべきかを一緒に考えることとした。

2. 第1部 発表（活動報告）

（1）トイレ維持は感謝と恩返し

発表：新冠ポロシリ山岳会 事務局長 堤 秀文 氏

新冠ポロシリ山岳会はイドンナップ山荘と新冠ポロシリ山荘の維持管理、そして幌尻岳（2052m）の登山道整備を担っている。

イドンナップ山荘は市街地から約50km離れており、新冠ポロシリ山荘はさらにその19km先にある。この道は北海道電力の管理道路となっており、登山者は19kmを歩いて新冠ポロシリ山荘にやっと到着する。

登山者の多くは、1日目に新冠ポロシリ山荘に一泊し、2日目に幌尻岳に登頂した後、もう一泊し、3日目にイドンナップ山荘まで長距離を歩く、2泊3日の行程をとっている。

イドンナップ山荘のトイレは汲み取り式。男子小便器2基と洋式トイレ2室があり、維持管理している。

新冠ポロシリ山荘のトイレはプレハブトイレ（男子小便器1基と和式便器1基）と仮設トイレ（和式便器1基）がある。夏期シーズンは毎月、2トントラックに載せたバキューム装置で汲み取り搬出処理している。



発表する堤秀文氏



イドンナップ山荘



新冠ポロシリ山荘・トイレ・汚物集積箱



車載型バキューム装置



裏から見たプレハブトイレと仮設トイレ

困難な汲み取り作業、プレハブトイレや車載型バキューム装置の老朽化、資金難などの課題を抱え、なぜ「トイレ維持は感謝と恩返し」なのか？堤さんの報文を資料集に掲載しているので、一読願いたい。



(2) 幌尻山荘の携帯トイレ導入3年目を終えて

発表：(一社)平取町山岳会 事務局長 藤田 英幸氏

幌尻山荘には小屋内1室、小屋外に仮設トイレが2基、水力発電を使ったバイオトイレ（男子小便器1個、洋式便器1個）がある。

2005年から2019年まで幌尻山荘の貯留式トイレのし尿を一斗缶に汲み取り、額平川を渡渉して人力で担ぎ下ろし処分してきた。

人力運搬も重労働で限界を迎えていることから、2019年に携帯トイレの導入を検討した。2020年から新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、その年と2021年の2年間は山荘が閉鎖となった。

2022年から「バイオトイレ以外は携帯トイレを使用する」大規模な転換をすることにした。小屋内トイレと屋外の仮設トイレを携帯トイレブースに改造。小屋前に携帯トイレ回収ボックスを設置。北電取水口に携帯トイレブースと回収ボックスを設置。またシャトルバスや山荘等で携帯トイレを販売するなど、携帯トイレ導入に向けた環境整備に取り組んだ。



発表する藤田英幸氏



小屋内トイレを携帯トイレブースに改造



小屋前に携帯トイレ回収ボックスを設置

当初は、使用済携帯トイレを登山者自身が持ち帰り、北電取水口の回収ボックスに廃棄するようお願いしていた。しかし、実際には小屋前の回収ボックスに廃棄する登山者が多く、結果として山岳会が人力で運搬せざるを得ない状況となった。

その労力を少しでも軽減するため、小屋前の回収ボックスへの廃棄は500円を徴収することにした。それにより小屋前の回収ボックスに廃棄する人は少なくなったが、水力発電機が故障してバイオトイレが使用できなくなり、携帯トイレの使用が激増した。

そのため、山岳会ではバイオトイレや小屋の夜間照明を復活させるため、可搬型エンジン発

電機を稼働させた。しかし、その燃料を人力運搬しなければならず、これまた多大な労力がかかることとなった。

バイオトイレの使用料として登山者から協力金1000円を負担していただくことにした。

携帯トイレ導入から3年が経過。以前の様にし尿を一斗缶で人力運搬することは無くなり、携帯トイレの使用も登山者に定着したが、使用済携帯トイレ、エンジン発電機の燃料運搬など、新たな課題と向き合うこととなった。



2024年も水力発電機の故障原因を特定できず、ソーラーパネルを設置したが、十分な電力を確保できず、エンジン発電機との併用となった。

平取町山岳会の携帯トイレ導入に至る経緯と現状の問題について、藤田さんが資料集に寄稿した報文は右のQRコードで見ることができる。

(3) 平成28年大雨被害後の伏美岳の現状

発表：十勝山岳連盟 理事長（芽室山の会） 上 嶋 寛 氏

伏美岳（1792m）の登山コース名は「芽室山の会コース」となっているように、芽室山の会（創設昭和35年：1960年。以下山の会と称する）が開削した山である。

山の会が創設された翌々年から登山道開削が始まり、苦闘の末、昭和52年10月に無名峰までの登山道が開通した。無名峰だったが、登山口付近の地名が伏美ということから「伏美岳」と命名。後に国土地理院の5万分の1地形図に記載された。



発表する上嶋寛氏

昭和52年には町事業で山小屋を建設、その後、ピパイロ岳までの登山道開削の難作業に取り組み、昭和59年8月に開通。山の会創設後25年の歳月を経て幌尻岳へ続くコースが完成した。



伏美岳登山口への林道崩壊（約7km）



崩壊が断続的に続いている

平成28年（2016年）8月の台風（集中豪雨）で、登山口までのトムラウシ沢林道（約7km）が断続的に崩壊、通行止めが続いている。当初は復旧の見込みが望めないほどの大規模崩壊であったが、2019年から林野庁による復旧



工事が開始された。

伏美岳の登山道は大きな被害はなく、林道崩壊後も山の会が登山道整備を毎年実施している。避難小屋の別棟トイレは汲み取りができないので使用禁止。携帯トイレの使用をお願いしている。なお、資料集に寄稿した報文を前ページのQRコードで見ることができる。

3. 第2部 パネルディスカッション

パネルディスカッションのテーマは本フォーラムのテーマと同じ。パネラーは第1部の発表者に加え、下記の3名。コーディネーターは当会代表の小枝正人が担当した。

- ・北海道大学大学院農学研究院 教授 愛甲哲也氏
- ・環境省 帯広自然保護官事務所 自然保護官 柳田邦玲雄氏
- ・環境省 新ひだか自然保護官事務所 自然保護官 草留大岳氏



愛甲哲也氏



柳田邦玲雄氏



草留大岳氏



小枝正人氏



パネルディスカッション
の記録(詳細)

(パネルディスカッションの要旨)

1. 国立公園になった2024年の8月に13市町村、北海道、環境省北海道地方環境事務所、森林管理署、北海道開発局、北海道運輸局、地元の登山関係団体、自然保護団体、観光関係団体、そして学識経験者で構成された総合型協議会「日高山脈襟裳十勝国立公園協議会」が設立された。
2. 協議会は国立公園の「ビジョン」「管理運営方針」「行動計画」について定める。
3. 協議会は各機関の長が出席する総会、その下に関係する団体の実務担当者が集まって中身を詰める幹事会がある。登山者に関する地域ルールとかマナーも議論される。
4. 国立公園として登山道の管理や整備を考える際には、日高山脈のもつ原始的な登山体験を維持し、過剰整備を避ける管理水準を関係者で共有する必要がある。
5. 協議会は現場にいる山岳会、登山に関わる人、地域の経済に関わる人、地域の住民が一人でも多く関わり、それらの人の意見が反映されるといい。
6. 地元山岳会も一生懸命に整備をして、技術指導もして、いろいろなイベントを開催して、皆さんが安全に楽しく登山ができる日高であることを発信していきたい。それを世の中にアピールする場が協議会でもあるかなと思っている。
7. 日高山脈の登山道は、ほとんど整備されていない山が多い。遭難事故の情報も結構入る。困難な山が多い日高山脈の登山者に対する安全管理をどうするか課題である。
8. 快適な登山のためには、バスの運賃とか宿泊利用料、トイレ利用料も支払う、受益者負担が当たり前になることを広報する必要がある。
9. 熊の出没情報を一つのプラットフォームに集約して発信すること。熊のリスクについての事前教育。熊スプレーの貸し出しなど、登山者を熊の事故から守る方策の検討が必要である。

(文責:仲俣善雄)

日高山脈・カムイエクウチカウシ山のテント場トイレ調査

山のトイレを考える会 幸村和実・城石謹爾

1. 目的

日高山脈には登山道の尾根や稜線に小規模なテント場が点在している。国立公園に指定されたことにより登山者の増加が予想され、テント場やカールでの汚物やティッシュの散乱、テント設営や排泄による植物の踏み付け、裸地の拡大が危惧される。その実態を調査、公表することで、国立公園の地域ルール等を検討するための一助となることを目指す。

2. カムイエクウチカウシ山（カムエク）

カムイエクウチカウシ山（1979 m）は日高山脈で幌尻岳に次ぐ第二の高峰。日本二百名山でもあり、全国から登山者が登頂を目指す憧れの山である。アクセスも長く、札内川の渡渉から始まり、岩稜帯もあり、山中1～2泊しなければならない。登山ルートには点々と小さなテント場が散在する山である。



「北海道夏山ガイド」のイラストマップをベースにテント場を追加

3. 調査日と調査結果（概要）

2025年7月19日（土）～21日（月）999mの三股に一泊して調査した。計画は2泊だったが、22日は雨の予報であったため1泊となった。

5箇所のテント場を調査。寒く天気もいまいち。ティッシュや汚物の散乱は殆ど無かったが、「999m 三股」で使用済携帯トイレ1個とティッシュ1つを回収した。八ノ沢出合の広いテント場もティッシュも無くきれいだった。



八ノ沢カール下の滝（左：幸村、右：城石）



カムイエクウチカウシ山の山頂

4. 調査結果

■八ノ沢出合い（680m）

沢に近いエリアはソロテント約3張設営可能。トイレ痕は無し。焚き火跡あり。



樹林帯の中はテン場が散在。ソロテント約11張設営可能。トイレ痕は無し。焚き火跡あり。



■999m三股

テント場は2個所でソロテント5張は設置可能。ティッシュ1個と使用済携帯トイレ1個回収。過去に使用したと思われる焚き火跡があった。トイレ道か分からないが踏み跡が散見された。





■八ノ沢カール（1540m）

テント場は4箇所あり。全部でソロテント5張設営可能。トイレ痕無し。

地形は緩やかで水の確保も容易であるが、ヒグマの濃密な生息域であり、糞や食跡（掘り返し）が著しい。ヒグマによる人身事故を回避すべく、テン泊は控えた方が望ましいと思われる。



■山頂直下（1970m）

ソロテント3張設営可能。トイレ痕は無し



■1760m（ピラミッド峰とカムエクのコルからカムエク側）

無理すればソロテント2張設営可能。トイレ痕無し。



5. 調査を実施して感じたこと

（城石謹爾）

日高山脈のなかでも難易度が高いとされる山に数えられている「カムイエクウチカウシ山」は、かねてから登りたい一座ではあったが、この度「山のトイレを考える会」のテント場とトイレ

レ調査で入山する機会を得た。

私たちが調査に入った日は、生憎日高側からの湿った空気が山脈を越えて十勝側へと流入するフェーン現象という不安定な気候であった。特に八ノ沢カールから上は濃霧となり、主稜線を登降する際には斜め下から吹き上げ叩きつける冷雨に祟られ両手が悴んだ。更に、断続的に降り注ぐ雨に沢の増水を絶えず心配した。沢の遡行を伴う日高登山の厳しさと難しさを痛感。渡渉不可によって生じる停滞を覚悟したが、幸いにも下山時の水量は問題なく、明るいうちに渡渉を終え無事下山できた。

晴れていたら絶景を満喫しながら軽やかな足取りで調査をすすめる事ができたであろう…と天を恨めしく思ったが、調査行としての目的自体は完全に達成する事ができただけでも「御の字」とし、無事の帰還と併せて感謝せねばならぬと感じた。同時に、体力のみならず沢の渡渉や遡行、藪漕ぎに必要なルートファインディングの技量、天候の変化による的確な判断力が求められる事も特筆したい。

原始が色濃く残されている広大な日高山脈では、トイレや携帯トイレブース、山小屋の数が非常に限られている。環境保護の意味からも登山者には携帯トイレの持参・使用をお願いしたいと感じた。また、既存の登山道（夏道）については植生保護や遭難防止から、継続的に整備・維持される事を願いたい。

最後に、「山のトイレを考える会」の一会員として、日高山脈で活動している各山岳団体との連携・協力を図っていきながら、日高山脈の自然を大切にしていきたい。

（幸村和実）

7月中旬、盟友城石氏とともに日高山脈のトイレ調査を行った。計画段階では1839峰と迷ったが、水の確保を考慮しカムエクを選択した。

前泊予定の札内川ヒュッテ到着時には、悪天により撤退してきた登山者の話を聞き、身の引き締まる思いがする。翌朝も雨が続き、若干気の重さもあったが、予報を信じ出発した。長い林道歩きの後、七ノ沢出合の渡渉から八ノ沢へ。ここで1回目のテント場とトイレ状況を実施した。トイレの痕跡は見当たらずまずは安心する。

999 三股のテント場で、使用済みの携帯トイレとティッシュを一つずつ回収する。せっかく携帯トイレを使ってくれた登山者が、持ち帰れなかったことが惜しまれたが、うっかりということもある。悪意ではないと受け止めた。翌日も雨と濃霧の中、999 三股を出発。八の沢カールから稜線へ上がったが、随所に熊の食痕があり、彼らの領域に立ち入っていることを実感する。

無事に山頂に到達し、調査を終えたものの、登山者に携帯トイレ持参の聞き取りを行えばよかったと反省も残った。今回の貴重な機会を与えていただいた「山のトイレを考える会」、そして前泊でおいしい味噌鍋を振舞ってくれ、ルーファイで頼りにした同行者の城石氏にも深く感謝したい。

（以 上）

日本自然保護大賞・選考委員特別賞を受賞

山のトイレを考える会

(公財)日本自然保護協会主催の日本自然保護大賞(2024年で10回目)に応募し、当会は選考委員特別賞を受賞しました。日本の自然保護と生物多様性の保全に大きく寄与した団体に授与されます。大賞は3団体、特別賞の沼田眞賞1団体、同じく特別賞の選考委員特別賞が2団体、入選が6団体です。

2000年ころから携帯トイレの普及啓発と登山者が利用し易い環境整備に行政や山岳団体、民間事業者等と協働で取り組んできたことが評価されました。

授賞式は2025年1月19日(日)午後札幌エルプラザで開催しました。

●応募活動名「大雪山国立公園の山岳トイレ問題解決に向けた取り組み」

●選定理由

トイレのない大雪山国立公園の美瑛富士避難小屋やトムラウシ山の南沼野営指定地は、登山者の排泄による汚物やティッシュが散乱し、高山植物が踏みつけられ裸地が拡大するなど目を覆う惨状だった。登山者に自分の排泄物を持ち帰る携帯トイレの使用を呼びかけ、現在、登山者の携帯トイレの持参率は90%以上となった。官民協働して携帯トイレブース設置の機運を醸成し、複数の場所に設置を実現した。

●受賞セレモニー

- ・2025年1月19日(日)14時~15時30分。札幌エルプラザ環境研修室
- ・出席者 日本自然保護協会：選考委員・(株)山と溪谷社自然図書出版部長 神谷有二氏
日本自然保護協会 日本自然保護大賞事務局 3名
山のトイレを考える会 22名



応募申請書



プレゼン資料



参加された皆さま、ありがとうございました！

「日本自然保護大賞 2024」授賞セレモニー開催！

日本一の自然保護、生物多様性保全活動を選ぶ「日本自然保護大賞 2024」の選考委員特別賞を受賞した「山のトイレを考える会」（北海道札幌市）の授賞セレモニーを開催いたします。

- 日時：2025年1月19日(日) 14:00～15:30
- 場所：札幌エルプラザ 2F 環境研修室 1（札幌市北区北8西3）
- 出席選考委員：
土屋俊幸（選考委員長、公益財団法人日本自然保護協会理事長）
神谷有二（選考委員、(株)山と溪谷社自然図書出版部部长）
- 次第(予定)

1. 自然保護大賞について	日本自然保護協会事務局
2. 講評	選考委員
3. 賞状・盾の授与	選考委員
4. 活動の紹介	山のトイレを考える会のみなさん



土屋選考委員長



神谷選考委員

【選考委員特別賞】

山のトイレを考える会

受賞テーマ：大雪山国立公園の山岳トイレ問題解決に向けた取り組み

（講評）登山の途中で立ち寄ったトイレの状態に不快な思いをした方は多いでしょう。また、登山者の少ない山域では、そもそもトイレが存在せず、環境保全上、景観上、深刻な問題を引きおこしている事例があります。最善の解決策として、携帯トイレの携行・使用があるのですが、その普及には様々な課題があるのも事実です。当会は、そうした中で、トイレ問題について「考える」活動だけでなく、現地での実践活動、啓発活動を、地道に、しかし着実に、長年取り組んできました。地域に拠点を置いた官民協働活動を高く評価すると共に、今後の活動の継続を強く望みます。



自然保護大賞について

2014年、自然保護憲章制定40周年の年に設立されました。地域性、継続性、先進性、協働性の観点から、優れた自然保護活動・生物多様性保全活動を表彰しています。素晴らしい活動を多くの方に知っていただくことで、SDGsやネイチャーポジティブの実現に向けた自然保護を推進する力にします。協賛：経団連自然保護協議会、後援：環境省、国際自然保護連合日本委員会、自然保護憲章普及委員会



公益財団法人日本自然保護協会について

自然保護と生物多様性保全を目的に、1951年創立の日本で最も歴史のある自然保護団体のひとつ。ダム計画が進められていた尾瀬の自然保護を皮切りに、屋久島や小笠原、白神山地などでも活動を続けて世界自然遺産登録の礎を築き、自然を守る活動を全国の会員と共に続けています。「自然のちからで、明日をひらく。」というメッセージを掲げ、人と自然がともに生き、笑顔で生活できる社会を目指すNGOです。



自然を守りながら、
暮らしを豊かに。

■ 本リリースに関するお問合せ

日本自然保護協会 日本自然保護大賞担当：志村、岩橋、渡邊

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F Tel:03-3553-4101 Email: award@nacsj.or.jp

R7 黒岳トイレの利用・管理実績と今後の改善に向けて

北海道上川総合振興局保健環境部環境生活課
主査（山岳環境） 中島 浩之

1 黒岳トイレの概要

- (1) 名 称 大雪山国立公園層雲峡勇駒別線道路(歩道)事業付帯公衆便所
- (2) 規模構造 延床面積：35.2m²、4ブース（各ブース大便器1、小便器1）
- (3) 供用開始 平成15年9月19日
- (4) 処理方式 コンポスト式バイオトイレ（太陽光発電機＋発動発電機：現在は稼働せず）
人力により処理槽の基材（おがくず）を攪拌（ペタル式）
- (5) 維持管理 上川総合振興局及び大雪山国立公園上川地区登山道等維持管理連絡協議会(以下「協議会」という。)

2 利用・管理実績推移

年 度	16	20	26	29	30	R1
供用期間	6/19～9/28 (102日)	6/4～9/28 (110日)	6/26～9/30 (97日)	6/20～9/30 (102日)	6/20～10/4 (106日)	6/19～10/1 (104日)
利用回数	18,275	10,466	12,239	15,201	不明	不明
黒岳入山カウンター	未設置	未設置	未設置	約27,000	約29,000	約19,000
1日平均(回)	179	95	126	150	不明	不明
最多利用	820人(7/18)	639人(7/20)	417人(9/21)	733人(9/17)	不明	不明
協 力 金	1,290,393円	921,816円	1,363,582円	1,227,231円	914,626円	885,722円

年 度	R2	R3	R4	R5	R6	R7
供用期間	7/1～10/1 (93日)	6/24～9/30 (99日)	6/19～10/1 (105日)	6/24～10/1 (100日)	6/24～10/1 (100日)	6/21～10/5 (107日)
利用回数	9,241	7,818	10,665	11,455	12,065	11,457
携 帯	1,257	714	1,278	1,778	1,606	1,504
バ イ オ	7,984	7,104	9,387	9,677	10,459	9,953
黒岳入山カウンター	約22,000	約18,000	約17,000	約14,000	約40,000	約38,000
1日平均(バイオ)	85回	72回	89回	97回	104回	99回
最多利用	549回(9/20)	482回(9/20)	497回(9/11)	418回(9/24)	518回(7/14)	369回(7/13)
協 力 金	856,702円	1,415,960円	1,665,771円	1,789,987円	1,971,218円	1,496,078円

※ 黒岳入山カウンター数は、環境省北海道地方環境事務所大雪山国立公園管理事務所調べ

※ 協力金～協議会が実施

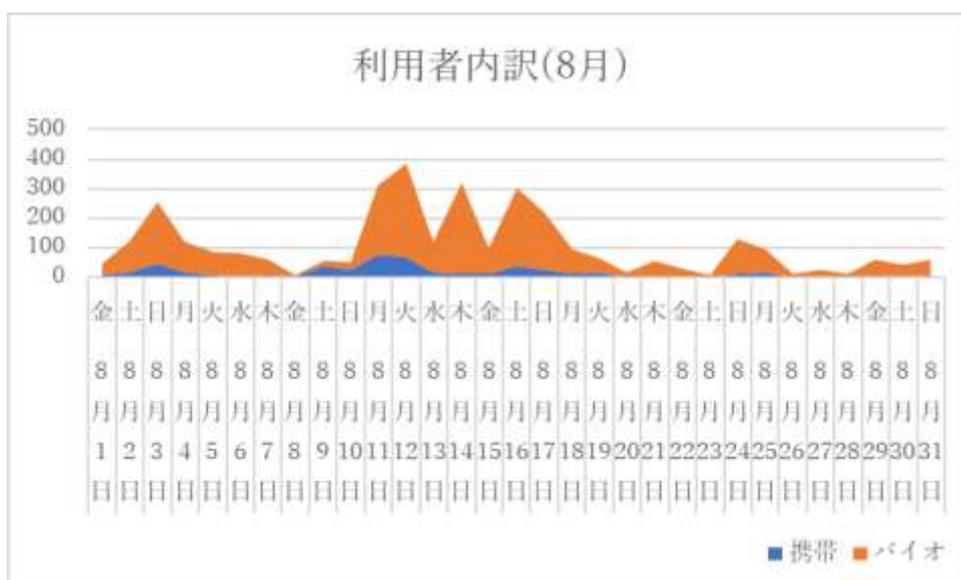
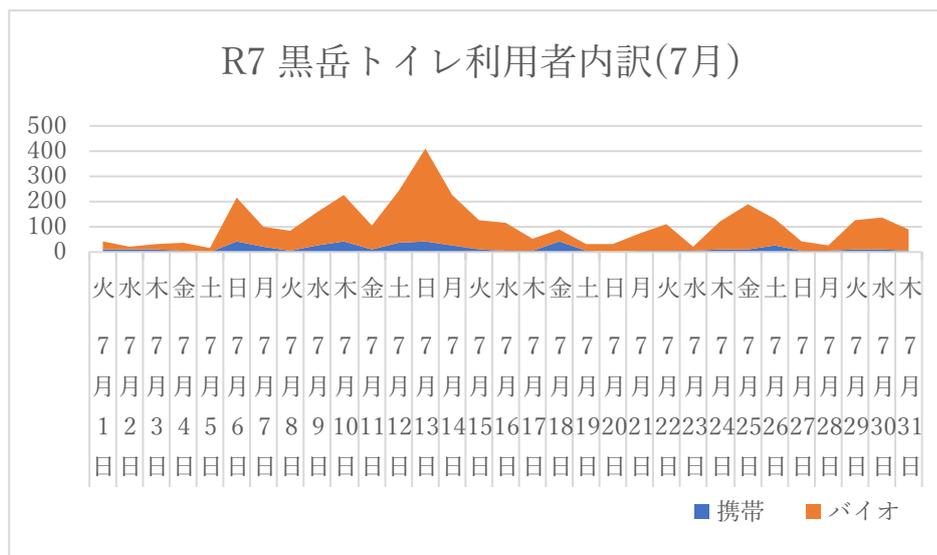
3 R2～R7バイオトイレの各月毎の利用状況

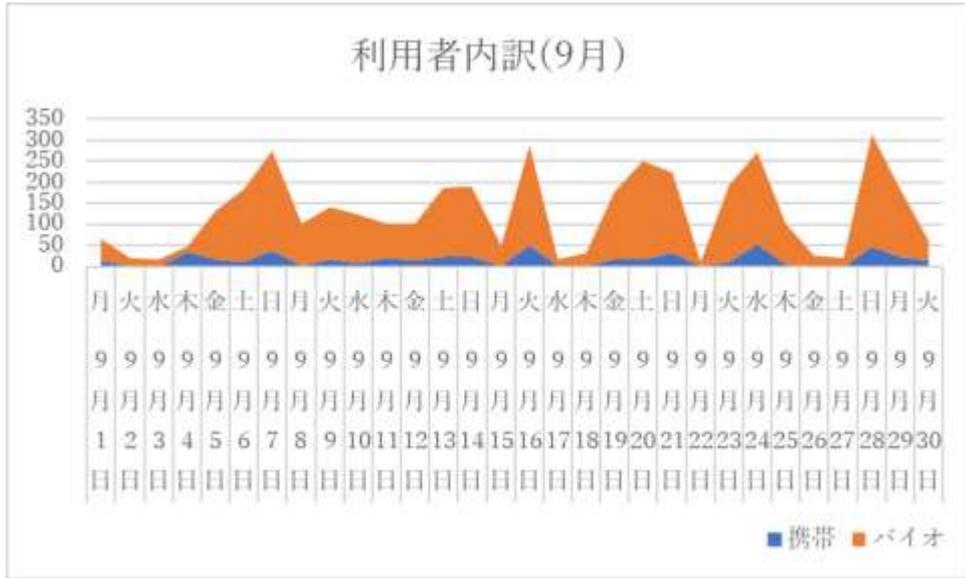
[単位:日]

利用状況	年度	7月	8月	9月	合計	該当日
100回～ 199回	R2	2	4	2	8	省略
	R3	8	4	4	16	省略
	R4	3	6	8	17	省略
	R5	7	4	7	18	省略
	R6	10	8	10	28	省略
	R7	12	5	11	28	省略
200回～ 299回	R2	5	1	1	7	7/12, 18, 19, 24, 26 8/22、9/6
	R3	2	1	2	5	7/18, 24、8/22 9/12, 15
	R4	5	2	1	8	7/10, 13, 15, 17, 31 8/7, 12、9/10
	R5	2	4	4	10	7/10, 17 8/12, 13, 15, 23 9/9, 10, 23, 25
	R6	2	1	4	7	7/16, 27、8/11 9/8, 15, 17, 24
	R7	1	3	5	9	7/12、8/3, 11, 16 9/7, 16, 20, 24, 28
300回～ 399回	R2	1	2	0	3	7/25、8/9, 23
	R3	0	0	0	0	
	R4	1	0	1	2	7/29、9/4
	R5	2	0	2	4	7/9, 23、9/17, 22
	R6	0	1	1	2	8/12、9/23
	R7	0	3	0	2	7/13、8/12, 14
400回～ 499回	R2	0	0	2	2	9/13, 21
	R3	0	0	1	1	9/20
	R4	1	0	0	1	7/16、9/11
	R5	0	0	1	1	9/24
	R6	2	0	3	5	7/15、9/22
	R7	0	0	0	0	
500回以上	R2	0	0	1	1	9/30
	R3	0	0	0	0	
	R4	0	0	0	0	
	R5	0	0	0	0	
	R6	1	0	0	1	7/14
	R7	0	0	0	0	

※ R2以降、コロナ禍をふまえて次の管理形態。

	R1年度まで	R2年度～	R4～
ブースの数	通常トイレ4ブース	通常トイレ2ブース 携帯トイレ2ブース	
トイレ便器用式	洋式	和式（携帯トイレブースは洋式）	洋式のみ
協力金の額	200円	500円（携帯トイレブースは無料）	





4 維持管理に係る費用等（過去6カ年実績）

年度	負担者	維持管理 資材	清掃賃金	し尿運搬 (ヘリ)	その他	費用合計	協力金収入
R1	振興局	50,328		495,000	520,560	2,128,044	885,722
	協議会	136,839	384,000	495,000	46,317		
R2	振興局			未実施	1,147,560	1,519,047	856,702
	協議会	199,600	168,000		3,887		
R3	振興局			未実施	880,000	1,427,407	1,415,960
	協議会	157,190	386,000		4,217		
R4	振興局			未実施	649,000	1,273,548	1,665,771
	協議会	247,871	371,030		5,647		
R5	振興局			1,375,000	660,000	4,140,440	1,789,987
	協議会	306,193	394,000	1,375,000	30,247		
R6	振興局			未実施	698,500	1,482,603	1,971,218
	協議会	358,989	420,000		5,114		
R7	振興局			未実施	742,500	1,412,479	1,496,078
	協議会	235,979	434,000				

5 シーズンをふりかえって

① 利用状況

環境省が設置したカウンターの登山者数調査結果では、黒岳登山者数はR6以降大幅に増加していますが、トイレ利用回数はそれほどの変動はありません。

また、石室宿泊者（野営場利用者を含む）については、石室利用者数は低迷しており、テント場利用者数についても2023年をピークに減少しています。

② 協力金

昨年度登山者数は一気に増加したもののそれに見合う収入は増えませんでした。

③ トイレの処理能力

当初のバイオトイレの処理能力は(50回/1ブース)とされており、現在2ブース稼働していることからバイオトイレの各月毎の利用状況においては100回以上の利用が処理能力オーバーということを前提に別表を作成しています。処理能力をオーバーしている日も多い状況です。

処理能力の改善のため、一昨年からの細かいおがくずを使用しており、水分過多の傾向が軽減されていると実感しております。

④ 環境への負荷対策

汲み取ったし尿については2重の袋に入れ、更にフレコンバックに入れてトイレ裏に保管しています。

⑤ 快適な利用に向けて

トイレ維持管理委託先の地元NPO法人かむいの御尽力や協議会、(株)りんゆう観光並びに石室管理人の御支援により、今年度もきれいで使いやすく快適なトイレを目指す取組を行いました。

- ・ ソーラーパネルを増設(協議会予算)し、各ブースにLED照明を設置、Bブースのヒーター4本分稼働(1ブースにヒーターは6本有り)
- ・ トイレのパイプや尿石等を流す水を確保するために雨どいとタンク(大型)を設置(NPO法人かむいの負担)

⑥ 汲み取り後のし尿運搬

し尿のヘリコプターによる運搬は、北海道と協議会の費用折半により実施しているところですが、今年度は実施していません。来年度に向けて運搬を検討しておりますが、燃料価格等の上昇により予算の確保が大きな課題です。



6 今後の当該トイレ維持管理対策の改善に向けて

① 処理方法の改善

・ 固液分離対策の推進

未処理のし尿を野外に排出しないことは当然ですが、全て運搬するとなると現実的には困難であるため、山の上における有効な対策のひとつとして、男子小便を処理しているモンライト装置を設置しているところですが、更に水質浄化に向けた取り組みを、大雪山国立公園連絡協議会の意見を踏まえながら進めていきます。

- ・ **バイオトイレの機能回復**

R8には太陽光パネルを増設し便槽ヒーター（6本とも稼働）を復活できる取組を進めます。
（Bブースのみ）

- ② **安定的な維持管理費用の確保**

今後も、地元関係者と共に、外国語表記の充実を含めた協力金徴収の取組を進めるとともに、今後の協力金徴収のあり方についても継続して検討していきます。

7 終わりに

黒岳トイレは今年度で供用開始から22シーズン目を迎えました。この間、関係者の多大な協力を得ながらトイレの維持管理作業を行い、少しずつではありますが改善されてきました。

今後とも登山者の皆さんや関係機関・団体の方々と協力しながら、いくつもの課題について取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

(フォーラム資料集等からデータ収集)

※黒岳入山カウンターは2016年まで佐藤文彦氏。2017年以降は環境省のデータ

年度	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025
フォーラム開催回と著者		6なし	7酒元	8小畑	9大道	10大道	11大道	12小室	13なし	14なし	15福井	16端場	17端場	18佐藤	19佐藤	20福井	21福井	22福井	24中島	24中島	25中島	26中島	27中島
供用日数		102	98	100	111	110	110	102	104	98	97	97	94	99	102	106	104	93	99	105	100	100	107
汲取り回数		5	4	5	5	5	5	5	6	5	6	6	6	7	5	5	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
汲取り量										4330	4943	4665	4349	4529	4504	2617	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
へり撤出														未実施				未実施	未実施	未実施			未実施
トイレ利用数		18275	14776	15199	14863	10466	11506	9182	10196	11344	13105	12239	16269	14069	15201	不明	不明	9241	7775	10616	11405	12065	11457
バイオトイレ利用数																							
携帯ブース利用数																							
最大利用数 (月/日)		820 (7/18)	599 (7/19)	638 (7/10)	740 (7/15)	639 (7/20)	392 (8/8)	307 (7/20)	362 (7/19)	616 (7/15)	627 (7/13)	417 (9/21)	592 (7/5)	655 (9/19)	733 (9/17)	不明	不明	549 (9/20)	481 (9/20)	496 (9/11)	417 (9/24)	518 (7/14)	369 (7/13)
黒岳入山カウンター※		33282	25857	27592	25597	26764	24100	18740	15807	18960	21003	23272	22081	19024	27000	29000	19000	22000	18000	17000	14000	40000	38000
維持管理費(万円)		190	220	200					223	188	208	194	174	91	466	217	213	152	143	127	414	148	141
協力金収入(万円)		129	119	139	143	130	119	98	108	117	125	136	115	110	123	91	89	86	142	167	179	197	150

設備不具合情報
整備情報

電源が供給されていた期間が分からない。電源供給されていた時の効果も分からない

- 便槽内の水分を少なくする (①②) ●室内を明るく、悪臭をなくする (③) ●便槽のし尿が満杯にならないように (④)
- ①電気設備 (ソーラー発電) を復活させ、1便槽150Wヒーターに電源を通電させる (トムラ短縮路ソーラーは運用継続中)
- ②男子小便器の尿を特殊剤で浄化して屋外に排出する
- ③小さなソーラーを取付け、室内電灯や換気ファン用の電源として使う
- ④便槽内のし尿が満杯近くなったら管理人さんが一時的にでも、少量のし尿でも汲取りはできないか (即応性)

改善案
(2017年検討)

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和7年度の取組みについて

滝下 麻耶（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）

永田 拳吾（環境省大雪山国立公園管理事務所上士幌管理官事務所）

トムラウシ南沼野営指定地（以下、「南沼野営指定地」）は、大雪山国立公園特別保護地区内に位置し、多くの高山植物が一面に咲き乱れる美しい景観が広がる一方で、長年にわたって深刻なトイレ問題を抱え、登山者から「日本一汚い幕営地」と揶揄されてしまうほどの状況であった。

本問題について、「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」（以下、「南沼プロジェクト」）と称する取組みが、平成29年4月に開始された。以来、南沼プロジェクトでは、関係行政機関や山岳関係団体等が協働し、南沼野営指定地の環境改善や携帯トイレ普及などの各種取組を推進している。本稿では、令和7年度における南沼プロジェクトの主な取組みについて紹介する。

南沼プロジェクトの立ち上げや、過年度の取組み状況については、これまでのフォーラム寄稿を参照いただきたい。

【1. 携帯トイレ配布ボックスの継続設置】（北海道 十勝総合振興局）

令和7年度も、南沼プロジェクトの一環として、トムラウシ短縮登山口（以下、「短縮登山口」）に無人の携帯トイレ配布ボックスを設置し、携帯トイレの持参を忘れた方や、南沼野営指定地にトイレがないことを知らなかった方でも、協力金（携帯トイレ1個当たり500円）を支払うことで、携帯トイレを入手できる取組みを実施した。

協力金はプロジェクト事務局である十勝総合振興局環境生活課で回収し、携帯トイレ補充の原資としている。

令和3、4年の取組では1個当たりの協力金は396～398円と、目標とする500円には及ばない状況であったが、令和5年度は過去2年を大きく更新し、1個あたり511円を記録、令和6年度は1個あたり586円を記録した。

今年度は1個あたり1,465円を記録し、協力金は昨年の3倍近い金額で過去最高となった。この要因としては、携帯トイレの総配布数が前年の約半数となっており、携帯トイレを持参する登山者が増えたことが理由の1つとして考えられる。

また、回収金額が多く集まったことも協力金が過去最高となった要因であり、引き続き協力金活動を継続できるよう更なる普及啓発に取り組んでいくこととする。

トムラウシ短縮登山口 携帯トイレ配布ボックス 協力金回収実績（確定値）

設置期間：令和7年6月9日（月）～令和7年10月1日（水）

総配布数（個）	回収金額（円）	協力金／個（円）
72	105,484	1,465

（参考：令和6年度 配布数 153個、協力金／個 約586円）

参考 携帯トイレ回収数（単位：個）

	7月	8月	9月	10月	合計
短縮登山口	457	298	164	2	921
温泉登山口	138	135	13	3	289
計					1,210個

（参考：令和6年度 回収数1,242個）

【2. 野外し尿痕跡調査】（環境省 上士幌管理官事務所）

南沼プロジェクトでは、平成 28 年度以降、南沼野営指定地におけるトイレ問題の改善状況を把握するため、野外に放置されたティッシュ・大便（以下、「痕跡」）を回収し、それらの数と位置を記録する調査を継続実施している。

また、令和 5 年度からは植生への踏み込みを極力避ける観点から、ドローンを活用した遠隔調査を導入した。

● 令和 7 年度の回収実績

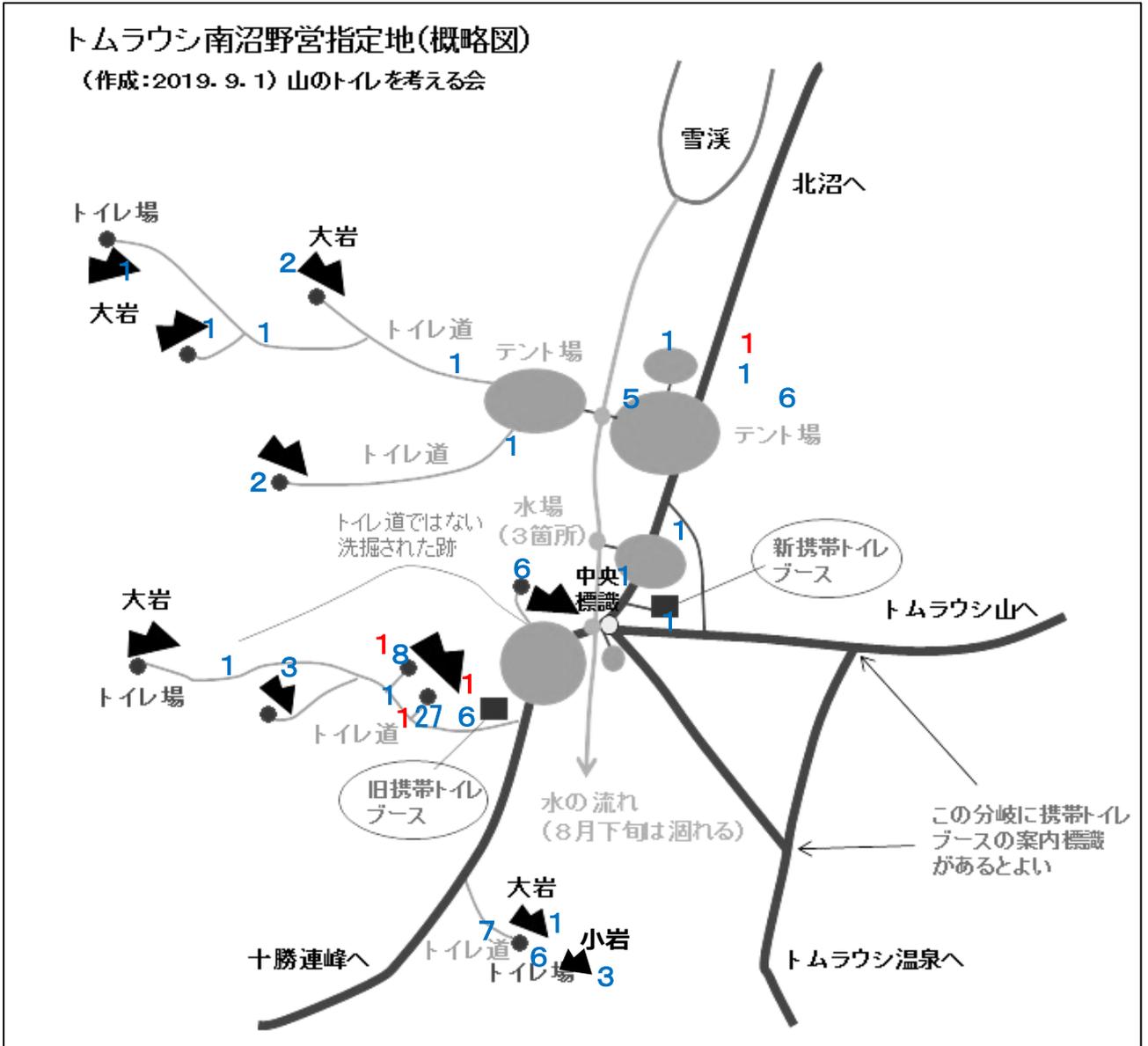
日付	時間帯	回収数	備考
7 月 16 日	05:00	2	
9 月 30 日	15:00	2	
計		4	

● 過去の回収実績

年度	日付・回収数							計	最大値
H28		7/2(土)	7/26(火)				10/1(土)	49 以上	30
		不明 全数回収	30				19		
H29	6/28(水)	7/15(土)	7/26(水)	7/30(日)		8/14(月)	9/16(土)	43	17
	6	2	6	5		17	7		
H30	6/25(月)	7/24(火)	7/25(水)	7/28(土)	8/6(月)	8/12(日)	9/16(日)	38	13
	1	13	2	1	5	6	10		
R01		7/4(木)	7/23(火)			8/12(月)	9/14(土)	13	7
		0	0			6	7		
R02			7/16(木)				9/16(水)	14	9
			5				9		
R03		7/1(木)	7/28(水)		8/9(月)	9/2(木)		16	6
		6	4		3	3			
R04	6/28(火)						9/26(月)	4	2
	2						2		
R05		7/5(水)					9/21(木)	5	4
		4					1		
R06		7/3(水)					9/19(木)	5	5
		0					5		

※平成 30 年度までは山のトイレを考える会等の協力を得ながら実施。令和元年度以降は環境省単独で実施。

- 野外し尿痕跡位置図 (※赤字：令和7年度 青字：平成30年度～令和6年度)



【令和7年度調査の総括】

- 近年の調査結果を踏まえ、トイレ道に戻りつつある植生への調査員の踏み込みを極力避ける観点から、ドローンを活用した野外し尿痕跡の遠隔撮影を計画したが、強風、そのほかの理由により十分な撮影ができず、徒歩により調査した。
- 初回調査(7/16)では、旧携帯トイレブース横トイレ道から直近の大岩でトイレ痕を確認、回収した。十勝岳連峰方面への縦走線から南に分岐するトイレ道、野営指定地中心にある大岩の周囲、野営指定地のロープ際を探索したが、トイレ痕は確認されなかった。
- 2回目調査(9/30)では、ティッシュが北沼方面岩陰と旧ブース裏の2箇所で見つかった。
- 6月から9月にかけて本野営指定地で撮影されたテント数は合計497となり、昨年から微増、野外し尿の数は継続して低いままとなった。

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトの活動実績データ記録

山のトイレを考える会 (2026.2.5)

(フォーラム資料集等からデータ収集)

(プロジェクト事業期間：H29～R2。その後予算なしで活動継続)

※登山者数はH28までは(有)風の便り工房の佐藤文彦氏のデータ。H29からは環境省の登山者カウンターのデータ

年度	H12 2000	H13 2001	H14 2003	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025
1										18牛嶋 原澤	19牛嶋 原澤	20牛嶋 原澤	21牛嶋 橋口	22村上 橋口	23村上 齋藤	24村上 齋藤	25村上 齋藤	26番匠 永田	27滝下 永田
2				129	141	265	192	280	248	220	556	429	1271	881	1453	866	1602	1242	1210
3										49以上	43	38	13	14	16	4	5	5	4
4											89%	89%	94%		98%				
5											84%	93%	96%		64%	91%	93%	94%	94%
6											324	308	469	302	223	422	429	439	497
7											680	647	985	634	468	886	901	922	1044
8											○	○	○						
9													2基目						
10													467	532					
11																			
12																9	101	162	約140
13																8/25~ 9/27	7/3~ 9/18	7/2~ 9/19	7/11~ 10/1
14																			
15				2414	2337	2434	2231	1971	2626	1259	3100	2400	2600	2300	2900	1900	3300	3300	3400
16											100	100	100	100	200	500	200	200	200

*2017～2019は南沼でのアンケート調査。2021は短縮路登山口でのアンケート調査(毎数48人)。2022～2025は入林履歴簿によるデータ

北海道の山のトイレ改善事業 (H12～H14)

- ・携帯トイレの配布：3年間で約6400個
- ・携帯トイレブースの設置 (東大雪圏連) トムラウシ南沼、ニベソツ山
- ・回収ボックスの設置 (東大雪圏連) トムラウシ温泉公衆トイレ、ニベソツ山登山口 石狩岳登山口、白雲山登山口
- ・バイオトイレの設置：トムラウシ短縮路登山口
- ・避難小屋し尿へり撤出：ヒサゴ沼、上ホロ、忠別岳、白雲岳の避難小屋4箇所

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト発足

- ・発足：H29年4月1日
- ・事業期間：H29～R2 (4年間)
- ・部長：新得山岳会会長 小西則幸
- ・事務局：北海道十勝総合振興局環境生活課 構成員
- 環境省 上士幌管理事務所、林野庁十勝西部森林管理署 大雪支署、北海道十勝総合振興局、北海道十勝総合振興局、新得町、十勝山岳連盟、新得山岳会、山のトイレを考える会

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトの成果

- ・ブース2基目を設置。ブース待ちが解消。
- ・携帯トイレの認知度、持参率は90%以上。南沼のトイレ痕が殆どなくなった
- ・トイレ道の植生復元事業と岩陰での排泄がなくなり、植生が復元してきた
- ・南沼までの中間地点カムイサンケンケナイにテント型ブースを設置。利用数も高い。
- ・携帯トイレ配布ボックスで携帯トイレが入りやすくなった

北海道・山のトイレマップの配布と今後について

山のトイレを考える会

1. 2019年から7年間配布

大雪山国立公園での携帯トイレ普及宣言が2018年7月に発表された。当会では、少しでも宣言に寄与できるよう、当会で作成した山のトイレマップを多くの登山者に配布することにした。トイレ、携帯トイレブース、携帯トイレ回収ボックスの位置そして携帯トイレ販売店を掲載している。

掲載しているのは大雪山国立公園の表大雪、東大雪、十勝連峰、知床（羅臼岳）、利尻山の5エリアで2019年から毎年約10,000部を登山者に配布している。



旭岳ビジターセンターでの配備
(特注の亚克力ケースを使用)

2. 主な配布（配備）先

毎年、配布部数が一番多いのは、旭岳ロープウェイ姿見駅で2,000部以上配布している。主な配布先は次のとおり。

(宿泊施設)

白銀荘、凌雲閣、東大雪荘、カミホロ荘、愛山溪倶楽部、蝦夷富士小屋、木下小屋

(ビジターセンター等)

旭岳ビジターセンター、層雲峡ビジターセンター、高原温泉ひぐま情報センター、

十勝岳望岳台防災セルター、ひがし大雪自然館、知床自然センター、

知床羅臼ビジターセンター、知床世界自然センター、利尻町立郷土博物館

(森林管理事務署関連)

黒岳森林パトロール事務所、森林パトロール高原事務所、森林パトロール銀泉台事務所

(その他・少数部数)

環境省の自然保護官事務所、森林管理署、北海道、市町村、自然保護団体、山岳会など

3. 来年度に向けた検討

今まで7年間、膨大な量の紙のマップを配布してきた。印刷費用約6万円、小包等の通信費を5万円ほど毎年支出している。また送付する労力もかかる。2026年度は次の理由で、紙のマップからQRコードによるURL周知へ変更を検討している。

- (1) QRコード周知により、ホームページのマップの変更だけで済ますことができる。印刷費、通信費及び労力の軽減が図れる。
- (2) 今までインバウンド用（英語版）の紙のマップは配布していなかった。QRコードにより、簡単に周知できる。
- (3) 環境省で制作した動画「携帯トイレの使用方法」も周知できる。

(以上)

日高山脈トイレマップの作成配布について

山のトイレを考える会

1. 日高山脈のトイレ設置状況

日高山脈襟裳国定公園が2024年（令和6年）6月25日に「日高山脈襟裳十勝国立公園」となった。

国立公園化により、登山者の増加が予想される。登山者の増加により、大雪山国立公園のように稜線にトイレがない日高山脈は、登山者のし尿やティッシュの散乱が危惧される。

日高山脈の麓の登山口には15箇所トイレが設置されている。山中のトイレは幌尻岳の中腹の「幌尻山荘」だけである。

国定公園の時は登山口に携帯トイレ回収ボックスがあるのは、アポイ岳登山口（2013年設置）及び幌尻山荘と北電取水口（2022年設置）のみだったが、国立公園後、下記の箇所に新たに設置された。

1. 北戸蔦別岳登山口（千呂露川コース）
2. チロロ岳登山口
3. 日高山脈山岳センター（50円で使用済携帯トイレを回収してくれる）

携帯トイレブースは、国定公園の時の2013年にアポイ岳5合目山小屋の横にテント型2基が設置された。2022年には幌尻山荘が貯留式汲み取りトイレを止め、携帯トイレブースに改修し、携帯トイレ導入に舵を切った。

2. トイレマップの作成について

当会では登山者に日高山脈の山岳環境を守ってもらうため、2025年6月に「日高山脈のトイレマップ」を作成した。

日高山脈の山小屋とトイレ、携帯トイレブース、携帯トイレ回収ボックス等の設置場所を図示。そのほか「登山者に守って欲しいこと」「携帯トイレの使い方」「使用済み携帯トイレの処分」「幌尻山荘のトイレ事情」を記載した。

できるだけ多くの登山者に知ってもらい、トイレマナーを守ってもらうため、約2,000部配布した。

3. マップで留意した点

登山口のトイレ、携帯トイレブース、回収ボックスがどの行政区域に所属しているのか、また国立公園計画で指定された歩道18路線とそのアクセス道が分かるように図示した。

4. トイレマップの配布先

2025年の主な配布先は下記のとおり。

- ・日高山脈博物館（日高町）
- ・日高山脈山岳センター（中札内村）
- ・アポイ岳ジオパークセンター（様似町）
- ・ユウパリコザクラの会
- ・道央地区勤労者山岳連盟
- ・中札内役場
- ・日高山脈関連の自治体、山岳団体等



（文責：仲俣善雄）

「さっぽろスカイレクトレイル」リーフレットの制作について

山のトイレを考える会 事務局長 仲俣善雄

1. 空沼岳～札幌岳縦走路登山道整備について

2019年11月に開催した北海道山岳団体交流会にて、廃道化した空沼岳～札幌岳縦走路の登山道復活が提案された。2020年に整備すべく検討、準備していたが、コロナ感染が拡大、2022年まで中止となった。

2023年に7団体で構成した「札幌登山道整備連絡協議会」（代表 佐藤 眞）を設立、2024年の整備に向け打ち合わせを繰り返し準備した。

〔札幌登山道整備連絡協議会の構成団体〕

道央地区勤労者山岳連盟・札幌山岳連盟・日本山岳会北海道支部・
北海道山岳スポーツクライミング連盟・北海道山岳ガイド協会・
札幌登山道整備隊（S T S T）・山のトイレを考える会

2. 2024年～2025年の整備状況

2024年には全線開通。2025年はさらに丁寧に整備をして登山者は歩き易くなった。

2025年には助成金を獲得、アウトドア会社からの寄付金もあり、刈払い機、剪定鋏、燃料等も購入できた。

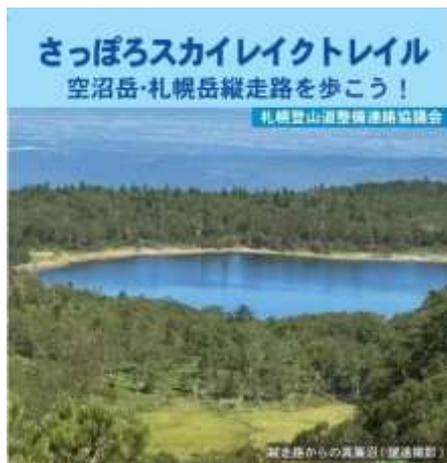
笹刈りの労力は全てボランティアで実施している。

3. リーフレットの制作について

登山者が歩けば、その踏み圧で登山道が安定する。少しでも多くの登山者に歩いてもらうため、PR用リーフレット制作、配布することにした。

登山道のネーミングを検討、美しい3つの沼を巡る登山道であることから「さっぽろスカイレクトレイル」とした。

リーフレット制作は山のトイレを考える会で担当し、2025年9月に完成した。中央バスは2024年10月に空沼岳登山口までの運行を廃止したが、途中まで公共交通機関を利用する万計山荘一泊のモデルコースを掲載、裏には縦走路のマップを掲載した。



支笏湖ビジターセンターの配備

4. リーフレットの配布について

協議会構成団体等への配布、アウトドア店・万計山荘・支笏湖ビジターセンター等に保管ケース付きで配備。また各種山岳団体のイベント等でも配布した。

2026年の夏期シーズンに向け、さらに配備箇所や機会を増やし、積極的にPRしていきたい。

○美瑛富士携帯トイレブース利用数

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
利用数	88 以上	179	180	196	218	203	201	142 以上	277 以上	365	480

○美瑛富士携帯トイレ認識率と持参率

年	2016	2017	2018	2019	2020		2023	2024	2025
母数	212	61	101	91	78				
認識率%	69	66	86	90	90				
持参率%	64	62	77	79	※76		85	85	89

2016～2020 はアンケート調査。※宿泊者は95%。2023以降は入林届簿のデータ

○銀泉台・回収ボックス利用数

年	2021	2022	2023	2024	2025
利用数	138	261	306	391	483

(2021年6月設置)



○赤岳コマクサ平・携帯トイレブース利用数

年	2023	2024	2025
利用数	280	415	436

(2022年8月設置)



○トムラウシ南沼・携帯トイレ認識率と持参率、携帯トイレ回収数

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
認識率%	89	89	94		98				
持参率%	84	93	96		64	91	93	94	94
回収数	556	429	1271	881	1453	866	1602	1242	1210

2017～2019の認識率と持参率：南沼でのアンケート調査

2021の認識率と持参率：短縮路登山口でのアンケート調査（母数48人）

2022～2025の持参率：入林届簿による入山者全体の持参率

(データ集計：仲俣善雄)

R7年度 大雪山国立公園・登山口別携帯トイレ持参率

管轄	登山口	登山者数	持参者数	持参率
上川中部 森林管理署	黒岳	22,983	10,547	45.9%
	銀泉台	6,561	4,431	67.5%
	緑岳	944	756	80.1%
	沼ノ原	564	536	95.0%
	美瑛富士	724	622	85.9%
	天人峽	304	183	60.2%
上川南部 森林管理署	凌雲閣	6,616	4,846	73.2%
	白銀荘	776	569	73.3%
	原始ヶ原	309	193	62.5%
南部森林室	愛山溪	1,244	895	71.9%
	RW姿見駅	16,825	5,591	33.2%
	RW山麓駅	1,734	713	41.1%
	天女が原	413	277	67.1%
十勝西部 森林管理署 東大雪支署	南ペトウトル山	166	112	67.5%
	東ヌプカウシヌプリ	1,832	1,161	63.4%
	白雲山鹿追側	1,953	1,230	63.0%
	白雲山土幌側	1,323	892	67.4%
	ニペソツ山	590	514	87.1%
	ユニ石狩岳	217	197	90.8%
	トムラウシ山温泉口	78	68	87.2%
	トムラウシ山短縮口	2,008	1,886	93.9%
	十勝岳新得側	40	18	45.0%
	合計	68,204	36,237	53.1%

提供：

上川中部森林管理署入林簿

上川南部森林管理署入林簿

十勝西部森林管理署東大雪支署入林簿

上川総合振興局南部森林室入林簿

令和7年度大雪山国立公園入山者数調査（登山者カウンター等による推計結果）

【概要】

令和7年度における下表の計26の登山口での調査結果は以下のとおり。調査位置は別紙参照。

- ・月別入山者数では、9月が最も多く、次いで7月、8月が多かった。
- ・登山口別入山者数では、黒岳が最も多く、次いで姿見の池（旭岳方面）、十勝岳温泉（安政火口）が多かった。
- ・カウンターの精度を考慮すると、大雪山国立公園の入山者数は、約9～13万人であると考えられる。

調査登山口		合計	6月	7月	8月	9月	10月	調査方法	調査期間
1	黒岳登山口	38,000	1,200	9,900	8,600	14,000	5,000	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月25日～10月15日
2	鏡泉台登山口（第一花園下）	9,900	300	3,000	1,400	5,100	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月29日～10月1日
3	高原温泉登山口（緑岳コース）	2,000	400	600	400	600	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月10日～10月9日
4	高原温泉登山口（沼めぐり登山コース）*1	200	200	-	-	-	-	ヒガマ情報センター利用者数資料	令和7年6月21日～6月28日
5	クチャンベツ登山口	1,000	100	300	300	200	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月11日～10月11日
6	松仙園登山口 *2	600	0～50	50～100	100	400	-	熱感知式カウンターからの推計	令和7年7月14日～9月30日
7	愛山溪温泉登山口	1,700	200	300	300	800	100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月2日～10月7日
8	姿見の池（縮合平方面）*3	11,000	1,100	4,900	1,500	2,800	700	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月13日～10月10日
9	姿見の池（旭岳方面）*3	32,000	3,500	8,600	8,600	9,000	2,300	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月13日～10月10日
10	天人峽登山口	500	50～100	200	50～100	100	0～50	人感センサー式カメラからの推計	令和7年6月13日～10月10日
11	美瑛富士登山口	700	40～60	200	200	200	40～60	人感センサー式カメラからの推計	令和7年6月14日～10月8日
12	十勝岳登山口（美瑛岳方面）	2,500	400	400	700	300	500	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月1日～10月10日
13	十勝岳登山口（十勝岳方面）*4	7,000	2,200	50～100	1,000	3,300	500	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月1日～10月10日
14	十勝岳温泉（安政火口）	16,000	1,900	4,000	2,400	5,800	2,200	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月14日～10月8日
15	原始ヶ原登山口	500	200	100	50～100	40～60	0～50	人感センサー式カメラからの推計	令和7年6月1日～10月10日
16	十勝岳新得側登山口	0～50	0～50	0～50	0～50	0～50	0～50	国有林入林簿からの推計	令和7年5月29日～10月13日
17	トムラウシ山登山口（短縮コース）	3,400	300	1,200	1,100	700	50～100	赤外線式カウンターからの推計	令和7年5月27日～10月14日
18	トムラウシ山登山口（温泉コース）	200	40～60	40～60	50～100	0～50	0～50	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月27日～10月14日
19	石狩岳登山口	1,100	200	300	300	300	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月29日～10月16日
20	ユニ石狩岳登山口	200	0～50	0～50	0～50	50～100	40～60	国有林入林簿からの推計	令和7年5月21日～11月5日
21	ニベツツ山登山口（幌加温泉コース）	1,400	400	300	300	300	100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月29日～10月16日
22	ウベベサンケン山麓平コース登山口	600	50～100	100	100	200	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月28日～10月15日
23	白雲山土幌側登山口 *5	900	300	100	100	200	200	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日
24	白雲山鹿追側登山口 *5	1,800	400	400	300	400	300	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日
25	東又ブカウシヌブリ登山口 *5	1,700	300	300	300	400	300	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日
26	南ベトウトル山登山口 *5	100	0～50	0～50	0～50	0～50	40～60	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日

*は次ページの注記を参照

【数値の取扱方法】

計測方法や設置箇所ごとに誤差が生じるため、次のように取り扱った。

- ①各登山口の登山者カウンターの月別計測値を記入
- ②明らかなエラー値を除外
- ③各登山口の年間合計及び各月の月間合計を算出
- ④誤差を考慮し、次のように表記
 - ・計測値 1000～：有効数字が2桁となるよう四捨五入
 - ・計測値 100～999：10の位を四捨五入
 - ・計測値 61～99：50～100
 - ・計測値 40～60：40～60
 - ・計測値 0～39：0～50

※①～④の操作により、次の点に注意が必要である。

- ・各登山口の月別入山者数の合計と年間合計は必ずしも一致しない。
- ・各月の登山口別入山者数の合計と月間合計は必ずしも一致しない。

【備考】

- ・現時点において、利用者が比較的少なく、かつ入林簿が設置されていない登山口については調査対象外としている。
- ・登山者カウンターの設置期間は、雪解け後から積雪前までのため、未設置期間における入山者数は把握していない。
- ・熱感知式カウンターの精度検証結果より、入山者数の実数は計測値よりも一定程度少なくなることが明らかになっており、誤差は約110%～148%と仮定している。

【注記】

- * 1 高原温泉登山口（沼めぐり登山コース）は、ヒグマ出没により6月28日以降は全面通行止めとなったため、6月21日～28日までのうち、開館していた5日間の利用者数。
- * 2 松仙園登山道については、開通期間（7月14日～9月30日）において、一方通行運用の起点である松仙園登山口で調査を行った。
- * 3 姿見の池の裾合平方面及び旭岳方面には、周回コースのみを採勝した人数は含まれていない。
- * 4 十勝岳登山口（十勝岳方面）は、カウンター不具合のため、7月3日から8月18日までデータ欠損。
- * 5 雪解けの早い然別湖外輪山については早くから入山があり、4～5月の国有林入林簿の集計では、白雲山士幌側登山口：400、白雲山鹿追側登山口：200、南ペトウトル山登山口：0～50、東ヌブカウシヌブ山登山口：200であった。

第1回～26回までの山のトイレフォーラム資料集及び
2025活動報告集は全てホームページに掲載されています。

2025年北海道の山のトイレ活動報告集

発行：山のトイレを考える会
発行日：令和8年3月15日

(事務局)

〒004-0061

札幌市厚別区厚別西1条2丁目3-18

電子メール hokkaido@yamatoilet.jp

ホームページアドレス <http://www.yamatoilet.jp>

本報告書は（公益財団法人）北海道新聞野生生物基金の助成金で作成しました



裏旭野営指定地にはトイレがない（2020.7.18撮影）

公益財団法人

北海道新聞野生生物基金

本報告書は（公益財団法人）北海道新聞野生生物基金の助成金で作成しました